



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2008年（平成20年）11月5日号 No. 1445

目次

■バブルの終わり —ロシアを襲う経済危機—	月出 皎司	1
■統計速報		4
2008年1～9月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／4		
■トピックス		5
JTロシア現法への追徴課税は無効に／5		
北海道知事がロシア極東を訪問／5		
函館市がロシア情報拠点開設へ／5		

特別寄稿

バブルの終わり —ロシアを襲う経済危機—

「現代ロシア情報分析会」幹事

月出 皎司

はじめに

ロシアも世界的な金融危機と経済混乱の波に襲われています。本稿では金融危機をなるべく政治との関わりの中で観察してみることにします。

破れた根拠なき楽観

9月中旬の株価下落時にも、ロシア政府はまだ平静を装っていました。というより、「西側経済は金融危機に襲われているが、ロシアは波静かな孤島だ」というプーチン首相は、ロシアは圏外だと本気で信じていたように感じられました。

本当に自信があったのだとすれば、それは5,000億ドルを超える外貨準備、約1,400億ドルの予備基金と500億ドル近い国民福祉基金という財政余裕金（「クドリンの貯金箱」）によるものだったでしょう。

ロシア政府は、原油価格が引き続き高い水準にとどまることを固く信じていたように思われます。10月初めに閣議承認された2020年までの社会経済発展コンセプトでも、国際原油価格を、2011～12年時点で約88ドル、2015年には97ドルと想定していました。

実需をよく知っているはずの産油国としては理解しにくいことですが、ロシア政府は、投機的に暴騰した相場は、ブームの波が変われば同じように暴落する可能性が高いことを